

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1471902583
法人名	有限会社 彩雅舎
事業所名	グループホーム 観音崎
訪問調査日	令和2年11月24日
評価確定日	令和3年1月14日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

令和2年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471902583	事業の開始年月日	平成17年3月1日
		指定年月日	平成17年3月1日
法人名	有限会社 彩雅舎		
事業所名	グループホーム 観音崎		
所在地	( 〒239-0811 )		
	横須賀市走水1-6-3		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和2年11月1日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、東京湾に臨み、リビングから世界遺産となった富士山が眺められる風光明媚な自然環境の中にあります。入居者の方お一人お一人の個性を尊重し、各個人の生活リズムに合わせ、心と身体の自立を高めるよう、真心のこもったきめ細やかな支援を心がけております。お食事は、旬の物を使ったバランスの良い料理を提供させて頂いております。バスハイク・夏祭り・クリスマス会・利用者様の発表会・お誕生会等々、ご家族との楽しい思い出づくりを企画し、ご家族とご一緒にイベントを楽しんで頂いております。今年はコロナの為、イベントが実施できませんが、いこごち良い空間づくりや、家庭菜園に力を入れています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒231-0023 横浜市中区山下町74-1 大和地所ビル9階		
訪問調査日	令和2年11月24日	評価機関 評価決定日	令和3年1月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●この事業所の運営は有限会社彩雅社の運営です。グループホーム観音崎は、京浜急行「馬堀海岸駅」から10分程バスに乗り「走水小学校前」下車して徒歩1分の場所にあります。事業所は走水海水浴場にほど近い場所にあり、建物は白色を基調とした鉄骨6階建ての造りで、2～4階の3フロアを各9名ずつとした定員27名の3ユニットのグループホームです。建物の構造上出入口は5階と1階の2ヶ所あり、5階が国道沿いに面した玄関、1階は国道下の海岸に面した出入口になっています。各階のリビングは180度のガラス張りになっており、リビングから東京湾を一望することができ、さらには富士山や房総半島まで望むことができ、開放感を感じながら気持ちよく過ごせるリビングになっています。

●ケアにおいては、利用者の些細な変化を見落とさないよう日頃から利用者の表情・仕草・健康・精神面において注意深く観察し、早期発見と迅速な対応を心がけ、必要に応じて医療機関とも連携を取ることで利用者の心身の自立を高められるよう心がけた支援を行っています。また、人によって認知症の症状も異なることから、フロア内研修や個々のスキルに合わせて研修を実施し、知識・技術の向上に努めています。

●事業所は鉄骨6階建ての造りになっており、2～4階を利用者が生活しているフロア、5階が国道沿いに面した玄関兼百景ルームとなっており、新型コロナウイルス感染対策として、当面の間直接フロアへの立ち入りを制限し、百景ルームでの面会もしくは対応を行っていましたが、感染者の拡大に伴い全面的に訪問を中止とし、スカイプの導入、葉書や写真添付による近況報告で対応しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

(株)R-CORPORATION 外部評価事業部

事業所名	グループホーム 観音崎
ユニット名	雅

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はフロア入り口に掲げられており、職員に共有できるようにしています。入居者様のお一人おひとりの家庭環境を元にした生活リズムに合わせて、地域の方々とも交流を持ちサービスが提供できるように、心がけています。コロナの為、今年は実現できていませんが、認知症カフェの試みもありました。	事業所の理念「個性を尊重します・生活リズムに合わせて人生を楽しむ・自立を高めます・趣向や思い出をありのままに受け止め・プライバシーを重視します・人間としての尊厳を大切にします」を各ユニットの入り口に掲示し、朝礼時などに唱和して周知・共有を図り、理念の実践につなげています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入はしております。今年はコロナ禍の為、毎年恒例の、小学校の運動会への参加や、夏祭り等のイベントは中止になってしまいました。できる範囲での公道の清掃活動は行っております。	自治会に加入しており、近隣の小学校で行われる毎年恒例の運動会や夏祭りなどの行事は新型コロナウイルスの影響で中止となってしまいましたが、できる範囲で町内会の公園の草刈りや公道の清掃活動を実施しています。また、今年度は実施できませんでしたが、認知症カフェの開催も試みています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年はコロナ禍の為、ホームでの行事に、が中止になっております。入居者様と地域の方との言葉を交わす交流の場が減ってしまいましたが、民生委員の方々へ報告をし、理解が深まるように努めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営推進会議を定期的には実施できませんが、現状報告、活動内容等を報告しています。また、日頃より相談、意見、要望を伺い、サービスの質の向上に努めています。	現在はコロナ禍の影響により、書面での開催となっておりますが、例年では民生委員・家族代表・事業所関係者・横須賀市職員(年1回)に参加いただき、事業所の現状や活動報告した後に質疑応答の時間を設け、意見交換を行い、サービスの質の向上に努めています。民生委員からは地域の情報や介護相談などについて情報提供などをいただいています。	今後の継続
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、市の担当者には常に連絡を取り、事業所の実情を報告しています。指導を仰ぎ、協力関係を築くようにしています。	指導鑑査課職員とは事業所の実現を理解・把握していただくために、日頃から連絡を取り合ったり、必要に応じてその都度連絡を取り合い、協力関係の構築に努めています。横須賀市主催の研修や講習会の案内が届いた際には、事務所や朝礼・申し送り時に周知して参加を促しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束行っておらず、玄関の施錠も行っておりません。身体拘束は、その方の尊厳を奪うということ、全員が理解して、入居者様全員が自分の意志で行動できるように職員は支援している。見守りと観察を怠らないようにしている。	事業所では身体拘束を行わないとし、研修のみならず、ケア会議などでも身体拘束・虐待について話し合う機会を設け、身体拘束・虐待の対象となる行為や弊害を共有認識し、身体拘束・虐待を行わないケアを実践しています。管理者をはじめ職員は、利用者自身の意思で行動できるよう見守りと観察を怠らないよう留意しています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に繋がる恐れのある行為や環境を作らないように心掛け、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修、勉強会に参加し、情報を共有して、職員間の意識向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に、施設長、ケアマネージャー立会いの下、ご本人様、ご家族様に不安や疑問点をお聞きする時間を十分にとり、理解、納得して頂けるように十分な説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年はコロナ禍の為、面会が中止になっておりますが、ご家族様とは頻りに連絡を取り、意見、要望をお聞きするようにしています。入居者様とも積極的にコミュニケーションを図り、意見、要望をお聞きして、会議の議題にあげて、サービスの質の向上に反映できるように努めています。	現在は新型コロナウイルスの影響で、感染症拡大防止対策の観点から、家族の面会はお断りしていますが、家族からの意見や要望は面会時や電話連絡した際に近況報告と合わせて意見や要望を伺っています。現在は電話やスカイプを活用して近況報告や画面越しによる面会をお願いしています。利用者からの意見や要望については、日々の会話や関わりの中で表情などから汲み取るようにし、会議の議題に挙げて検討した後に可能な範囲で反映させています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議を開き、職員の意見、要望、提案を聞いている。それをもとに、朝礼で施設長に報告し運営に反映できるようにしています。	管理者は出勤時に職員とコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりを心がけています。毎月開催しているフロア会議で職員から意見や提案を聞き、各ユニットの職員が参加している朝礼時に施設長へ報告し、内容を精査した後に運営に反映させています。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境を整えて、職員個々の仕事に対する取り組みや向上心を高めるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自治体が開催している研修に参加出来るようにしている。また、新人研修や、フロア内研修で、個々のスキルに合わせて、知識、技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター会議、研修会に参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご本人様が不安にならないように、ご家族様から要望を伺った上で、ご本人様とコミュニケーションを取ったり、行動や言動からニーズを読み取り、信頼関係を築きながら、安心、安全に過ごしていただけるように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来訪された時には、日々の生活状況や、健康状態を伝え、また、要望や心配事をお伺いして、不安がないような信頼関係が築けるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と十分に時間を取り、お話しをさせて頂き、ニーズを把握した上で、アセスメントを行います。ご本人に不安がないような支援の提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、出来る事は手伝っていただき、出来ないことを支援することにより、役割分担をしています。一緒に作業をすることにより、共同生活をしていると感じていただけたり、関係を築けるように心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に、日々の生活の様子をお伝えして、安心していただける環境づくり心掛けています。毎日の生活を共に過ごして、出来ないところを支援して、ご家族様と共に支えていくという関係作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様はもちろんの事、ご友人やご近所の方の訪問時に安心してお話が出来るような環境作りに努めていますが、コロナ禍の為、面会が出来ない時は、お手紙や、電話にて近況の報告や、ご本人様の要望をお伝えしたり、人との繋がりを大切にする支援を行っています。	新型コロナウイルスの影響で、感染症拡大防止対策の観点から、家族をはじめ友人などの面会はお断りしており、現在は電話やスカイプを活用して近況報告や画面越しによる面会をお願いしています。コロナ禍になる前は、家族や近隣に住んでいた方の面会もあり、リビングや居室などにお通して、会話していただくようにしていました。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションで共同作業を行ったり、お手伝いや食事の準備などを通して、お互いを尊重し、支え合えるように職員が配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様から、お手紙をいただいたり、希望される方々には、イベントなどの案内を出しており、参加いただいています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様と一人一人と積極的にコミュニケーションをとり会話の中から希望や、意向をくみ取る事を心掛けています。また、コミュニケーションが難しい方は、観察や見守りを行い表情や仕草などからも思いをくみ取れるよう、努めています。	入居前面談時に、本人・ご家族から過去の生活歴や既往歴、ADL・IADL、趣味嗜好、暮らし方の希望について話を聞き、その方の思いや意向に沿った支援を心がけています。利用者と一緒に積極的にコミュニケーションを図り、一人ひとりの希望や意向の把握に努め、得られた情報は個人記録や申し送りノートに記載して情報共有しています。内容によっては、月1回のケア会議で検討し、ケアプランに反映させ、思いや意向を叶えられるように支援しています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とはもちろんの事、ご家族様とも十分なコミュニケーションを取り、今までの生活歴を把握してこれまでと変わらぬ生活環境を整えるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活リズムを大切にして、現状の心身状況や残存能力を記録に残して、職員全員で情報を共有し把握出来るようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度モニタリングを行います。ご本人様、ご家族様、関係機関とのアセスメントをした上で、意見、要望にそった介護計画を立て、サービス提供をしている。日常的にサービスを提供している中で気づいたことを記録に残すようにしています。	入居時のアセスメントで得られた情報を基に初回の介護計画を作成しています。初回の介護計画は1ヶ月を目安に経過と観察を行い、入居面談時に得られた情報と差異が無いかなど、細かな情報を収集しています。月1回のケア会議でカンファレンスとモニタリングを行い、日々の記録や職員の気づきを基に意見交換し合い、ケアの課題などを明確にして共通認識を図り、現状に即した介護計画を作成しています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック表にて、バイタル、食事摂取量、水分摂取量、排泄状況を記録した上で、日々の様子をケース記録に記録して、職員間で情報を共有して実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月に1度、モニタリングを行います。ご本人の日々の生活の変化、ご家族の状況などのニーズの変更に、既存のサービスに捉われない多機能化にも柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年、地元の走水神社へ奉納される竹を分けていただき、夏祭りとして『流しそうめん』を行い、入居者様やご家族様との交流の場としておりましたが、今年はコロナ禍の為、中止となりました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携として月2回の主治医の往診がある。また、緊急時はいつでも往診に来ていただける体制が出来ています。電話相談にも応じていただけ、必要であれば専門医の紹介をしていただける体制も取っています。	入居時に事業所の協力医療機関について説明し、利用者・家族の意向を尊重して主治医を決めていただくようにしています。協力医療機関の小磯診療所からは月2回の訪問診療に加え、24時間のオンコール体制を取っており、電話での医療相談、緊急往診も対応していただくことが可能となっています。他科については、必要に応じて紹介状を書いていただき、受診にお連れしています。看護師は週1回利用者の健康管理に来て、適切な医療支援が受けられるようにしています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、看護師に入居者様の日々の状況を伝え、必要であれば主治医への連絡、報告がされる支援体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療、介護に必要な情報提供が出来るようにしています。また、退院時にスムーズに受け入れられるように、情報交換や相談が出来るように、関係機関との連携に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長、管理者、ケアマネージャー、主治医が同席の上、ご家族様と重度化や終末期に向けた話し合いをし、それに基づき介護計画を作成しています。また、状況に応じて常に、報告や、話し合いの場を設けています。	入居時は、重度化や終末期における指針に沿って、事業所で出来ること出来ないことを説明しながら、終末期の意向を確認しています。事業所での看取りを希望され、実際に重度化が見られた場合は、施設長、管理者、ケアマネージャ、主治医、家族と重度化や終末期に向けた話し合いの場を設け、穏やかな最期を迎えられるようチームとして支援しています。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルをいつでも閲覧できる場所に置き、職員の意識を高めるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	上記同様、緊急対応マニュアルにより意識を高め、定期的な防災訓練を実施して、実践力を身につけるように心掛けています。	年2回、緊急対応マニュアルに沿って、火災・地震想定で訓練を実施しています。うち1回は消防署職員に立会いを依頼し、都合が合えば職員立ち合いの下に実施し、訓練終了後に講評や助言をいただいています。事業所の周辺に湧水の出る井戸がある為、水以外の食料や備品を中心に準備しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、声掛け、声のトーン等、尊敬の念を持ちながら、丁寧な言葉使いは勿論のこと、プライバシーを損ねないように十分注意しています。職員同士の言葉づかいにも注意して、尊厳とプライバシーの保護を大切に出来るように心掛けています。	人格の尊重やプライバシーについては、研修のみならず業務会議やケア会議の中でも、接遇・マナー・倫理について話す機会を設け、入居者様一人ひとりの人格を尊重し、尊厳やプライバシーを遵守することの大切さを理解してケアに当たるよう職員に周知徹底しています。理念にも「個性を尊重します・プライバシーを重視します・人間としての尊厳を大切にします」と掲げており、利用者と接する時には声の大きさやトーンに留意しながら対応しています。	今後の継続
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様お一人おひとりに応じたお声掛けをして、ご本人の意思を尊重して、自己決定が出来るように働きかけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切にして掃除や食事のお手伝いやレクリエーションなど、皆で楽しんで出来る事を大切にして、その人らしい豊かな暮らしが出来るような支援を心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出るように、ご本人が希望する洋服を着ていただけるようにしています。出来ない方は、選ぶお手伝いをするように心掛けています。訪問の理美容もあり、おしゃれが出来るように支援しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お一人おひとりの残存機能を把握した上で、料理の下準備や盛り付け等を手伝っていただき、食事中もお声掛けをして、入居者様同士や職員との関係性を深めたり、コミュニケーションを楽しめる団欒の時間に出来るように努めています。	利用者の希望も取り入れながら食事のメニューを考案し、食材は数軒のスーパーに毎日買い出しに行っています。食事の準備や片付けなどは、利用者一人ひとりの残存能力を把握したうえで、その方の出来ることをお願いし、残存能力の維持につなげています。事業所では、五感で食を楽しんでいただけるようにしながら、食への関心を高め、生きがいや楽しみを持って生活できるよう注力しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事量、水分摂取量は、お一人おひとりの身体状況に合わせて摂取していただけるように支援しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、お一人おひとりの口腔状態の確認を含めて、職員が見守り、お手伝いをして、義歯は洗浄消毒、保管しています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄リズム、習慣、健康状態を把握するために個々に排泄表に記入して、仕草や行動を見極め、時によってはお声掛け、誘導するように心掛けています。お声がけによって失禁が減ってきています。	全員の排泄状態を記録しています。排泄記録を基に時間やタイミングを見計らった声かけや誘導を行い、トイレでの自立排泄に向けた支援を心掛けています。その際には、自尊心や尊厳を損なうことのないよう留意しながら対応しています。便秘防止の取り組みでは、毎日体操を行ったり、食材の工夫や、水分摂取量の管理、乳製品などを摂取していただくようにしています。		今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は排泄表に記入して、食物繊維が多い食事、水分補給、運動の働きかけを、個々に応じて支援できるように努めています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりの希望やタイミングを優先して、体調や身体状況に応じて入浴を楽しめるように、見守り、部分介助、全介助(リフト浴)の支援している。安心して入浴していただけるように努めている。	安全に入浴していただくために、事前にバイタルチェックを行い、週2回以上の入浴支援を行っています。入浴介助を行う際には、職員の都合ではなく、利用者の希望や意向を尊重し、利用者のADLの状態に応じて見守り、一部介助、全介助、同性介助など自尊心や羞恥心を損なうことのないよう留意しながら対応しています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣や健康状態に応じて、居室の空調に注意し、寝具の清潔を保ち、快適な安眠出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の目的、副作用を職員が理解して、誤薬がないように名前、日付を確認しながら、ご本人が服用するまで見守りしています。薬の変更があった場合は、ケース記録に記入して、職員全員がわかるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人の、生活歴を知ることにより、好きな事などを見つけ、お手伝いや、レクリエーションを通して、役割や、楽しみが見つけられ、張り合いや喜び、笑顔が多く充実した日々が過ごせるような環境づくりに努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くへの散歩や外気浴を実施していたり、バスバイクや地域の催し物に参加して外出の機会を作りましたが、今年はコロナ禍の為外出は控えております。	天気や気候、体調を考慮しながら近くにある見晴らし台や砂浜まで散歩に行き、潮風に当たりながら目の前に広がる大海原や景色を楽しんでいただいています。今年はコロナ禍の為に人が集まるような場所への外出支援は控えていますが、例年は花見や、家族一緒の遠出のバスバイク等、季節行事を計画しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様はお金をお持ちではありませんが、ホーム内で、金券を使い、ショップでのお買い物を楽しまれています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	今年は特にコロナ禍の為、面会できないので、手紙のやり取りや、家族からの電話を取り次ぐ支援をしています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特にリビングには、季節感を感じられるように、季節に合った飾りつけをおこなっています。また、入居者様の作品を飾ったり、居心地の良い空間づくりを目指しています。	各階のリビングは180度のガラス張りになっており、東京湾を一望することができるようになっていました。天気の良い日には富士山や房総半島まで望むこともでき、視界を遮るものがないため、開放感を感じながら気持ちよく過ごせる空間になっています。リビングの装飾は季節や行事に応じて変化をつけながら、季節感や生活感を感じられるように工夫しています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お一人お一人が思い思いの時間を過ごせるように、共用スペースの食卓やイス、ソファやを配置しています			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお好きな家具や馴染みのもの、大切にしているもの、ご家族の写真や絵などを持ち込んでいただき、居心地よく、落ち着いてその人らしく過ごせるように工夫をしています。	各居室にはベッド、エアコン、収納戸棚が備え付けとして完備されています。安心して過ごせる居室となるよう、使い慣れた家具や思い出の品を出来るだけ多く持ち込んでいただくように声かけしています。テレビ、衣装ケース、タンス、家族写真などの馴染みのある物に囲まれながら、思い思いに過ごされています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は危険の無いように、家具や備品を配置し、安全を確保するようにしています。フロアの廊下は回廊になっており、そこに手すりが機能的に配置されています。歩行訓練や機能訓練のために活用しています。			

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム 観音崎  
雅

作成日 令和2年11月24日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	38	時々、精神的に不安定になられる方がいる	自分の居場所を作り、仲間と共に楽しく共同生活が送れるように支援していく。	レクやお手伝いを通じて役割を持ち、ご自分の居場所や、仲間意識を育てていく。	6か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 観音崎
ユニット名	茜

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は各フロア入口に掲げられており全員が周知徹底できるようになっている。家庭的な環境から、地域社会に、どのようにかわりを持てるかを意見を集めて検討を重ねています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し夏祭りや、小学校の音楽会、運動会に招待され地元の方達との交流も増えていきましたが、コロナ禍でイベントが中止になり、公道での、ごみ拾い等行い地域の方たちと交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方や地域の方が運営委員会にやホームの行事に参加されている中で、理解を深めて頂くと共に、私達が気付かない事などを話し合っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、定期的な運営委員会が実施できないが、電話のやり取りで、相談、意見、要望を伺っています。それをサービスに反映させています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政窓口に出向いて、ホームの問題点等の相談をし、指導を仰ぎ、情報共有をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアの殆どの方が、自分の意志で行動したり移動出来る為、拘束の必要はなく、今後も身体機能維持に努めます。フロアのドアも施錠はしていません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません、今後も虐待が起こるような環境を作らないように致します。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会に参加して情報を共有しています。特に成年後見制度については必要性を活用できるように、職員間の意識向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時ご家族に納得されるまで詳細に説明を行っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族来訪時には、必ず日常生活の報告を行い、不明な点などある時はすぐに説明を行っています。ご家族からの要望があれば職員で話し合いをして実行できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議で実施しています。ご家族様からのご意見、入居者様の現在の状況又、サービス提供の見直しなどを取り上げています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、仕事に対する取組等を評価して頂いています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入所初日にオリエンテーションを行い、業務の内容、手順などを説明しながら、個々のケースの説明、質問を受けつけ自己の振り返りをしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センター会議、研修会に参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご本人に不安がないように、ご家族よりの情報をもとに本人の要望を伺い、安心を確保できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に今迄の日々の生活状況や健康面のお話をお伺いして、心配していることや、要望を聞いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と十分に話し合い、それぞれのニーズを把握した上で、アセスメントを行い、支援するように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームが入居者、スタッフが共同の生活場所であることを認識し役割分担をして生活時間が共有出来るように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時に安心して頂けるような環境づくり、毎日の生活の中で共に支えていく関係作りをしています。現在はコロナ禍の為、面会は、難しいですが、お手紙などで、近況報告しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍以前は、ご友人や入居前の近隣の方もお見えになり、楽しくお話が出来る環境を作っていました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係はとても良く、孤立しないように、歌、お茶の時間等できっかけづくりを提供しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族で今後も関係を保ちたいと希望されたご家族にはイベントや行事の案内をしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	毎日生活する中で、ご本人からの傾聴を心がけています。発語が出来ない方は、その仕草や表情で訴えをくみ取り、その方の思いや意向を組取っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に話を聞くことはもちろんご家族ともコミュニケーションをとり、これまでと変わらぬ暮らしが出来るように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	大まかな時間ではありますが基本的には一人ひとりの生活リズムを大切にしています。心身状況や残存能力を理解して記録等により職員全員で把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングにおいてサービスの適正、新しい生活課題があった時はサービス担当者会議を開き、計画の見直しをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録は当然の事バイタル表で食事摂取量、排泄の確認をしております。問題がある時はカンファレンス会議を開き対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況の、ニーズの変化には多機能化に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎年走水盆踊り保存会の方が来て頂き入居者の方と一緒に踊っていただきましたが、今年は、コロナ禍で三蜜を避けるため断念しました。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携として月2回の主治医の往診と週1回の看護師の訪問があり、緊急時はいつでも往診に来ていただいています。電話相談にも応じていただいでいて、必要があれば専門医の紹介をしていただいでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の訪問時には、状況を伝えてあります。その内容については、看護師より主治医に報告、連絡がされ、適切な支援体制が出来ています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	今季は、茜ユニットでは、入院の方はおりませんでしたが、入院中も医療機関とは、連絡を取っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今季茜ユニットでは、2名の方を看取りました。ご家族、主治医と終末期の話し合いを行いターミナルケアを職員にも周知してもらい、チームケアを実施しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルをいつでも閲覧できる場所におき、職員の緊急時に対する意識を高められるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいには十分注意しています。職員間でも、声の大きさ、個人的な指摘、など利用者の尊厳、プライバシーの保護も大切に出来るように心がけています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活上危険がない限り、自己決定をして頂いています。本人が自己決定出来るように声かけして、何をしたいのかを傾聴して、思いをだしやすいように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の仕方は自由に過ごされるように個々のペースを大切にしながら、残存機能を生かせる支援を心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日頃からご自分で考えて衣類を選んだり、身だしなみを整えたりして、皆様おしゃれを楽しまれています。理容、美容院も受け入れています。女性らしさを忘れないようにしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえ、盛り付け等手伝ってもらっています。旬の食材を見せて、そこから会話が広がり、食事中も楽しい話題や雰囲気づくりを心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や形態を一人一人の状況に合わせてお出ししています。美味しく召し上がるように工夫しています。水分は良く摂取しています。定時以外にも量を確認して個人対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科が月に1回来ています。歯科衛生士指導を職員が受け毎日の口腔ケア（舌ブラシを含む）を実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本全員トイレ介助です。ご自分で行かれる方と介助の必要な方とは異なります。失禁のある方はトイレ誘導をしています。排泄表の確認を行い、状況の把握しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄リズムは、排泄表で確認しています。食物繊維の多い食事や水分補給、軽い運動等努めていますが、改善しない時は主治医の指示を仰ぎます。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個人の体調や身体状況により支援しています。本人の希望で夕食後の入浴も行って楽しんで頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息はご本人の意志でして頂いておりますが、夜間の睡眠に影響のないように気を付けていますので、夜間もよく良眠されております。季節ごとの寝具の調整、清潔に努め安眠できるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬のないように一人ひとり手にのせ職員が日付、名前を声に出して見守りしながら服用して頂いております。内服薬の理解が出来るように話しを持って把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から好きな事、得意な事を見つけていきます。お手伝い、音楽、制作等色々な場や機会を作るよう支援しています。全員参加が出来る機会を提供しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴をしたり、年に数回バスハイクや地域の催し等外出の機会を実施したり、ご家族との外出も支援しています。今季はコロナ禍でほとんど実施できませんでしたが、近くに散歩に行くときは、マスク着用し、手洗い、消毒を行っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持されている方はいません。金銭管理の真似事が出来るように、ホーム内のショップで観音崎発行券を使い、買い物を楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に取り次いでお話なさる方もおります。手紙を受け取りご本人にお渡していますし、手紙を出す時も支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな問題やトラブルはありません。清潔に心がけ入居者の要望を受け入れながら季節感や生活感が持てるように工夫しています。リビングからの景色は絶景で皆様にとっても喜ばれています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	生活スペースはご本人の意志で過ごされています。共用スペースやコーナーをリビング内に設けていて、自由に活用されています。テーブルを囲みイスを配置し、会話が弾むようにしてあります。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族がそろえた物やご本人が大切にしてきた物、置物等を飾ったり、その人らしい個性を出すように、工夫と安全を考えて過ごして頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないように家具や備品を配置し安全確保をしています。床も家事作業をしやすいように動線をよくし、バリアフリーです。居室よりリビングに向かう廊下は回廊になっていて、手すりが機能的に設置されているので、歩行訓練のために活用する事も多いです。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム観音崎  
茜

作成日 令和2年11月24日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	終末期に向けた介護計画の方針の共有と支援の内容を職員に理解してもらい実行する。	終末期ケアの支援内容の共有と尊厳に配慮した支援をする。	状態の変化に合わせてカンファレンスを開きその時の状況に合わせたケアの実施を図る。	1 2 か月
2	38	毎日フロアを何周も徘徊されている。	本人にとっては、何か、目的があり徘徊されているので不安や心配事を取り除く。	認知症のBPSDの一つで、見当識障害、判断力障害の為に無理に徘徊を止めたりしないで見守りのケアの実施。	1 2 か月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

事業所名	グループホーム 観音崎
ユニット名	汀

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を提示している。その人らしい暮らしが出来るよう取り組んでいる。今年はコロナの為、社会参加の方法を違った形で取り組む事を検討しています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の小学校の運動会や音楽会など毎年参加しておりましたが、新型コロナ禍により外出が思うようにできません。ホーム周辺の道路清掃は人出が少ない時に行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方や地域の方が運営委員会にやホームの行事に参加されている中で、共に過ごす時間を通じ理解が深まっていると思います。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為、運営委員会を定期的には実施できない状態ですが、電話等で、相談・意見・要望を伺い、その中で、サービスに反映させています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者に連絡を取り、指導を仰いでいます。運営委員会、行事等にも参加いただくようにしていますが、今年はマスク等、担当者自ら持参して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロアの殆どの方が自分の意志で行動したり移動が出来る為、拘束の必要はありません。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。虐待が起こらないように努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、勉強会に参加し、情報を共有して、職員間の意識向上に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居説明時に、施設長、ケアマネージャー立会いの下、不安や疑問点をご本人様やご家族様からお聞きする時間を十分にとり、理解、納得して頂けるように十分な説明をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事などでご家族が集まる機会や、面会に来られた時に、意見、要望をお聞きするようにしています。入居者様とも積極的にコミュニケーションを図り、会話の中からご意見を伺うこともあり、改善に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	いつでも意見を言える雰囲気や関係に努め、提案等については実現出来るよう一緒に考えるようにしています。毎月のフロア会議では、職員からの意見を出す機会となっています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が個々の向上心を高められるよう、職場環境を整えるよう努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自治体が開催している研修に参加出来るようにしている。また、新人研修や、フロア内研修で、知識、技術の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括センター会議、研修会に参加しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、ご利用者様が不安にならないように、ご家族様から要望を伺った上で、ご利用者様とコミュニケーションを取り、その行動や言動からニーズを読み取り、安心、安全に過ごしていただけるように、信頼関係を築いていくように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が来訪された時には、日々の生活状況や、健康状態を伝え、また、要望や心配事をお伺いして、不安がないような信頼関係が築けるように心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族と十分に話し合い、ニーズにもとずきアセスメントを行い、サービスの提供に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、出来る事は手伝っていただき、出来ないことを支援することにより、役割分担をして共同生活をしていると感じていただけるように心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪時にホームでの日々の生活の様子をお伝えして、毎日の生活を共に過ごして、出来ないところを支援して、ご家族様と共に支えていくという関係作りをしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナ禍により、ホーム前の道路は人通りも多く、特に黒人の方はマスクなしでマラソン等しているので、外出が難しい。以前は散歩中気軽に声掛けしてくださることがありました。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	掃除や食事の準備などのお手伝いを通して、入居者様同士がお互いを支え合えるように職員が配慮しています。また多くの関わりを持てるように、他フロアを訪問し、交流が出来るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族様からのご要望があれば、行事等のご案内を送らせて頂いております。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様と積極的にコミュニケーションをとり、一人ひとりの希望や、意向を確認し、また、表情や仕草などからも思いをくみ取れるよう、観察、見守りを怠らないよう努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様とはもちろんの事、ご家族様ともコミュニケーションを取り、今までの生活歴を把握して、できるだけこれまでとあまり変わらぬ生活が出来るように支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活リズムを大切にして、現状の心身状況や残存能力を記録に残して、職員全員で把握し情報を共有するようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様とのアセスメントをした上で、意見、要望にそった介護計画を立て、サービス提供をしている。日常的にサービスを提供している中で気づいたことを記録に残すようにしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルチェック表にて、バイタル、食事摂取量、水分摂取量、排泄状況を記録した上で、日々の様子をケース記録に記録して、職員間で情報を共有し、問題がある場合は担当者会議を開き、見直し実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の日々の生活の変化、ご家族の状況などのニーズの変更に、既存のサービスに捉われず、多機能的に、柔軟に対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年は、コロナ禍の為、夏祭りは中止となりました。コロナの為、入居者様やご家族様との交流の場が難しい状況で、1日も早く以前のように出来るようになり、支援していきたいと思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携として月2回の主治医の往診があり、また、緊急時はいつでも往診に来ていただける体制が出来ています。電話相談にも応じていただけ、必要であれば専門医の紹介をしていただける体制も整っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間に1度、看護師に入居者様の日々の状況を伝え、必要であれば主治医への連絡、報告がされる支援体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には治療、看護に必要な情報提供が出来るように準備しています。また、退院時にスムーズに受け入れられるように、情報交換や相談が出来るように、関係機関との連携に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際には看取りの説明を行い、体調を見極め終末期をどこで迎えるか確認しています。ホームでの看取りを希望された時は、本人、家族、施設長、主治医、管理者、ケアマネ、との連携を図り納得のいく終末期を過ごせるように最大限に出来る事を支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルをいつでも閲覧できる場所に置き、職員の意識を高めるように努めています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な防災訓練を実施して、実践力を身に付けるように心掛けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、声掛け等、尊敬の念を持ちながら、丁寧な言葉使いや、対応に十分注意しています。職員同士の言葉づかいにも注意して、尊厳とプライバシーの保護に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様お一人おひとりに応じた言葉掛けをして、ご本人の意思を尊重して、自己決定が出来るように働きかけに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりの生活リズムを大切にして掃除や食事のお手伝いやレクリエーションなど、皆で楽しんで出来ることを大切にして、その人らしい生活が出来るような支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気温等に合わせて、ご本人が希望する洋服を着ていただけるように、選ぶお手伝いをしています。着替えも出来ないところだけを手伝うよう心掛けています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューや盛り付け等の工夫に加え、下準備を手伝っていただき、職員と一緒に食卓を囲み、にぎやかに食事をしています。食材は、季節を感じられる食事お出しできるよう心がけていて、話題作りの提供をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態や食事量、水分摂取量は、お一人おひとりの身体状況に合わせて摂取していただけるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、お一人おひとりの口腔状態の確認を含めて、職員が見守り、お手伝いをし、義歯は洗浄消毒、保管しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のリズム、習慣、健康状態を把握する為、個々に排泄表を作成、記入し、出来るだけトイレで排泄し、気持ちよく過ごして頂けるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は排泄表に記入して、食物繊維の多い食事、水分補給、運動の働きかけを、個々に応じて支援できるように努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	お一人おひとりの希望やタイミングを優先して、体調や身体状況に応じて入浴日の変更や拒否の場合は時間をずらしたりして工夫しています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の空調に注意し、寝具の清潔を保ち、快適な安眠出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用している薬の目的、副作用を職員が理解して、誤薬がないように名前、日付を確認しながら、ご本人が服用するまで見守りしています。薬の変更があった場合は、ケース記録に記入して、職員全員がわかるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴から好きな事、得意な事を見つけ、できるだけ全員参加できる機会を作るよう努めています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、近くの公園や海の桟橋へよく出かけていました。又町内の催しなどにも参加したりして、外出の機会を作っていましたが、今年はコロナ禍により、お出かけは中止にしています。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方で金銭管理をされている（現金をお持ち）方はいらっしゃらない。ホーム内の金券を使い、ホームのショップにて買い物を楽しまれています。買った物の計算もして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナの為、面会が中止になりましたので、スカイプを実施し、楽しんで頂きました。又手紙のやりとりも支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから海を眺められるようにソファを配置し、居心地よく過ごして頂けるような空間作りを心がけています。ベランダのプランターで、三つ葉やミニトマトを育てて、収穫の喜びを分かち合ったりしています。リビングからは、富士山が眺められます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様お一人おひとりが思い思いの時間を過ごせるように共用スペースやコーナーをリビング内に設けて自由に活用されております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やご本人が大切にしてきた物、写真、置物などを持ち込んでいただき、ご本人が心地良く、その人らしく過ごせるように居室づくりを支援しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は、危険の無いように家具や備品を配置して安全を確保しています。建物内の廊下が廻廊になっており、そこに手すりが機能的に配置されています。歩行訓練や、機能訓練の為に活用しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所 グループホーム観音崎  
汀

作成日 令和2年11月24日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	外反母趾が酷く、両足の親指の第一趾が第2趾に乗った状態で歩かれていたが、長年無理な体制をとられていた為、急に膝が腫れて、膝関節症との診断を受けた。痛みで歩けなくなったが、排泄はトイレでないと無理な方なので、痛くても動かれるので、骨折と骨折後の排尿が心配である。	痛みを和らげて、歩行できるようにし、トイレで排泄できるようにする。	痛みがある時でも歩こうとされるので、声掛けし、興味を替え、歩く回数を減らす。腫れは湿布薬とアイスノンで冷やし、痛みをできるだけ早くとる。	3ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。